



文 武 両 輪

ぶん ぶ りょう りん
～学習も行事も部活動も～

令和5年3月14日

【文責】校長 蔦川 誠

御卒業 おめでとうございます

本日、本校第61回卒業証書授与式が挙行されました。今年も無事に82名の卒業生を送り出すことができ、うれしく思っています。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。そして、ありがとうございました。中学3年間、そして今日1日のことを生涯忘れず、笑顔で胸を張ってこれからの人生を歩んでください。ここに式辞（一部省略）を掲載します。

～ 第61回 八戸市立長者中学校 卒業証書授与式 式辞 ～

(前略)

思い起こせば、皆さんの中学校生活は新型コロナウイルス感染症の感染真ただ中にありました。そのため、学校の教育活動に様々な制限・制約がかけられてきました。しかし、そのような困難な状況の下でも、前向きな姿勢で最大限の努力を積み重ねてきた皆さんの姿がいつも見られました。そこに現れていた強靱かつ不屈の姿は、後輩たちだけでなく、われわれ教職員の心をも励まして学校の雰囲気を明るくし、コロナ禍においても確かな長者中の歴史と伝統を創り上げてくれました。

皆さんにとって、特に思い出深い、今年度の行事を振り返ってみます。

まずは5月の修学旅行。感染者が出れば延期という厳しい条件でしたが、一人一人が体調管理に努めた結果、計画どおり実施することができました。仲間との絆を深め、「唯一無二」の思い出をつくることができました。

6月の市中体夏季大会。2年生の秋季大会や3年生の春季大会の多くの競技が中止となる中で満を持して臨みましたが、必ずしも思いどおりの結果とはなりませんでしたが、全力を出し切った後のすがすがしさと充実感を感じることができました。

7月の校内合唱コンクール。最高の合唱を目指し、練習で創り上げたハーモニーを公会堂いっばいに響かせることができました。全員の心が一つとなった、文句なしの最高の合唱でした。

10月の体育祭と文化祭。感染拡大のために延期になった体育祭では、最高学年として後輩を直接リードする立場を経験しました。準備段階では、仲間との意見の衝突や行き違い、さらには後輩をうまく指導できない不安や焦りがあったことと思います。しかし、本番が近づくにつれて団結力が高まり、当日はもてる力を全て出し切って、最高の思い出をつくることができました。文化祭では「想いをかたちにする」を意識した様々なパフォーマンスが繰り広げられ、3年生の演劇「戦争を知らない子どもたち」は観衆に静かな感動を与えるとともに、ロシアのウクライナ侵攻で戦争の脅威を身近に感じるようになった今、平和の尊さとありがたさをしみじみと感じさせる内容でした。

今、改めて振り返ってみると、皆さんが最高学年として、責任感や使命感をもって精一杯取り組み、全校をまとめて、全ての行事を成功に導いたことが分かります。その結果、どの行事においても、今年度の生徒会テーマである「結束」を実現することができました。

皆さんはまさしく長者中の顔であり、常に1・2年生を引っ張ってきた、頼りになるリーダーでした。皆さんの活躍をととても誇りに思います。

それでは、卒業の門出に当たり、餞（はなむけ）の言葉を贈ります。

「生きることは、自分の花を咲かせること。」これは、詩人の坂本真民さんの言葉です。

皆さんがこれから一歩踏み出そうとするのは、これまでとは大きく違った環境です。楽しいことやうれしいこともあるとは思いますが、時には思いどおりにいかないことや辛く苦しいこともあるでしょう。特に辛く苦しい時には自分自身をしっかりと見つめ直し、自分の好きなことや得意なことを考えてみてください。そして、好きなことや得意なことを最大限活かして、たくましく生き抜き、自分だけの花を咲かせてください。花を咲かせることは夢や目標を叶えることであり、そのためには目の前のことに常に全力で取り組み続けることが必要です。長者中伝統の「三つの力」を身に付けた皆さんなら、きっと立派に花を咲かせることができます。

皆さんがこれからの人生において色とりどりの素敵な花を咲かせることを楽しみにしています。

(後略)

〈式辞の追伸〉

卒業生の皆さん、今日の卒業式が終わり、お父さんやお母さん、家族に会ったとき、いちばんに「ありがとう」の一言を伝えてください。心を込めた人生最高の「ありがとう」を。

令和5年3月14日

八戸市立長者中学校 校長 蔦川 誠